

# 病害虫 防除だより

No. 313

平成29年8月7日

## ネギハモグリバエの多発生に注意!!

今年は7月下旬からネギハモグリバエ成虫が多くみられます。今後、幼虫による被害が予想されるので、各圃場の寄生状況を確認し、少発生の際に防除を徹底しましょう。これから定植する場合にも発生が予想されるので防除を行いましょう。

### 1 防除対策

- ネギアザミウマの発生も見られるので、同時防除を行う。
- 同一系統の薬剤を連続して使用しない。
- 多発生の場合は7~10日おきに2~3回防除する。
- 収穫間際の場合は農薬使用基準に注意する。
- 防除効果を高めるために、十分な薬液量(100~300ℓ/10a)を均一に散布する。薬剤の浸透移行性を高める機能性展着剤を加用するとより効果が高い。



成虫

幼虫による食害痕  
(不規則な線状)

### 2 主な防除薬剤

薬剤名	ネギハモグリバエ ハモグリバエ類	ネギアザミウマ アザミウマ類	使用量	使用時期 (使用回数)
アベイル粒剤	◎	◎	株元散布 40g/セルレイ1箱	育苗期後半 ~定植当日(1回)
ベリマーク SC	◎	◎	苗床灌注 400倍 0.5ℓ/セルレイ1箱	
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	○	◎	灌注 50倍 0.5ℓ/セルレイ1箱	定植前日 ~定植時(1回)
			株元灌注 400倍 0.4ℓ/m <sup>2</sup>	14日前まで(1回)
ディアナ SC	◎	◎	5,000倍	前日まで(2回)
リーフガード顆粒水和剤	◎	◎	1,500倍	7日前まで(2回)
ベネビア OD	○	◎	2,000倍	前日まで(3回)

◎：防除指針掲載薬剤 ○：登録のある薬剤(防除指針不掲載)

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllg301.do>) を確認して下さい